平成２７年１１月２０日

岡山市長　大　森　雅　夫　様

岡山市基本政策審議会
会長　　越　宗　孝　昌

岡山市のまちづくりの長期的な構想について（答申）

平成２６年１２月１８日付け岡政企第３４９号で諮問のありました標記のことについて、本審議会において慎重に審議、検討を重ねた結果を別紙のとおり答申します。

岡山市のまちづくりの
長期的な構想について（答申）

策定にあたって

○　岡山市は、平成２１年４月の政令指定都市移行に合わせて、「岡山市都市ビジョン　新・岡山市総合計画」を策定し、これに基づき着実にまちづくりを進めてきました。

○　一方、我が国を取り巻く社会経済状況が大きく変化し、今後岡山市においても、人口減少社会の到来が見込まれる中、変化を実感したいという市民のまちづくりへの期待の高まりを踏まえ、岡山市らしさを発揮しながら、都市の活力を生み出し、さらなる岡山市の発展を実現していかなければなりません。

○　このため、本総合計画は、「水と緑」に象徴される上記都市ビジョンの理念を引き継ぎながら、住みやすさに一層の磨きをかけるとともに、国内外を視野に入れた未来志向の躍動感のあるまちづくりを、市民と行政が協働して進めることにより、まちの変化を創出し、まちの活力、市民の岡山への愛着と誇りを高めることをめざし、策定します。

長期構想の目的・期間

○　長期構想は、「都市づくりの基本目標」と「将来都市像」を定めるとともに、その実現に向けた「都市づくりの基本方向」を明らかにするものです。

○　長期構想の期間は、平成２８年度から平成３７年度までの１０年間とします。

○　「都市づくりの基本方向」に基づく施策の具体的展開については、前期中期計画（平成２８年度から平成３２年度までの５年間）、後期中期計画（平成３３年度から平成３７年度までの５年間）を策定し、計画的に推進します。

１．時代の潮流と課題認識

（１）時代の変化や要請

人口減少問題と少子高齢化への対応

○　我が国の総人口は、平成２０（２００８）年の約１億２８００万人をピークに減少を始め、平成６０（２０４８）年には人口が１億人を割り込むことが見込まれています。また、年少人口、生産年齢人口の減少と高齢者人口の増加が進むとともに、人口の東京一極集中が進展するなど地域的な偏在が加速しています。

○　岡山市では、県内、中四国地方からの転入超過等により、これまで順調に人口が増加してきていますが、今後、構想期間中の平成３２（２０２０）年の約７１万８千人をピークに人口減少期に突入することが見込まれます。高齢者人口は、全国より緩やかなものの増加することが見込まれ、社会保障費が引き続き増加する一方で、出生率は人口を維持する水準とは大きな隔たりがあり、中長期的な生産年齢人口の減少への対応が大きな課題となっています。

○　また、これまでの人口増加を前提にした都市づくりにより、低密度で分散化した市街地が拡大しており、人口減少社会を見据えた都市構造の転換が求められています。その際には、人口減少や人口構造の変化は、都市部や中山間地域等で異なっていることに留意する必要があります。

グローバル化・情報化のさらなる進展

○　様々な社会経済分野で人・モノ等が活発に移動するグローバル化が大きく進展しています。特に経済分野では、企業の海外進出等による国際的な相互連関が深まるとともに、市民の活動においても多様な交流が進んでいる状況を踏まえ、グローバルな視野に立った施策の展開が求められています。

○　また、情報通信技術（ＩＣＴ）の急速な進化は、市民の生活や企業活動など、社会経済のあらゆる分野に大きな変化をもたらしています。こうした情報通信技術（ＩＣＴ）を様々な政策分野で有効に利活用することにより、効率的・効果的な市民サービスの向上を図っていくことが重要となっています。

地域経済の活性化、広域的役割への期待

○　人口の東京一極集中が進む状況において、東京圏等への人口流出に歯止めをかけ、若い世代の岡山への定着を図るためにも、地域経済を活性化することが不可欠であり、新たな雇用と活力を生み出す戦略的な産業振興、特産の果樹をはじめ農業の担い手不足への対応が大きな課題となっています。

○　また、グローバル化の進展に伴い、岡山市を訪れる外国人観光客が増加し国籍も多様化する中、今後、訪日外国人観光客の一層の増加が見込まれることを踏まえ、岡山市への観光誘客を促進するため、受入れ力を高めていくことが重要となっています。

○　市街地が拡散し、中心市街地の活力、賑わいが相対的に低下している状況を踏まえ、岡山市全体の発展における中心市街地のもつ役割の重要性をあらためて認識するとともに、都心部、周辺部を通じ公共交通の利便性を高めていくことが求められています。

○　人口減少下にあっても、地域を活性化し、安心で快適な暮らしを確保していくため、広域的な枠組みで取り組むべき行政課題が顕在化しており、効果的な対応が求められています。

子育て・教育ニーズの拡大、若者や女性など市民の力の発揮

○　少子化への対策が大きな社会的課題となる中、若い世代の結婚、妊娠、出産の希望が実現されるよう、多様なニーズに対応できる子育て環境を整えることで、少子化の流れを変えるとともに、非正規雇用や子どもの貧困などの問題が指摘される状況も踏まえながら、若者、女性をはじめ多様な人材が活躍しやすい環境づくりに取り組んでいくことが課題となっています。

○　また、全国的な調査結果から、子どもの学力、暴力行為などの問題行動や不登校

には大きな課題があり、その解決に向け、一層の取組が求められています。

○　さらに、個人の価値観やライフスタイルの多様化、少子高齢社会の進行などにより、行政需要は一層高度化、多様化していることから、地縁組織はもとより、ＮＰＯや企業、大学等の多様な主体の力を活かした地域課題の解決に向けた取組を一層促進していくことが求められています。

安全・安心に対する市民意識の高まり

○　岡山市は自然災害の比較的少ない都市ですが、近年の巨大地震の発生や大型化する台風、頻発する集中豪雨等により、市民の安全・安心に対する意識が高まっています。南海トラフ巨大地震の発生の危険が指摘される中、地域の防災・減災力に重点を置いた、災害に強い都市づくりが求められています。

○　人口増加や都市化の進展に伴い、高度経済成長期に集中的に整備された橋りょう、公共施設等の都市インフラが、今後急速に老朽化すると見込まれており、計画的な予防保全などの適切なマネジメントが求められています。

○　今後の一層の高齢化の進行による医療・介護需要の増加への対応が求められるとともに、市民の健康寿命が全国平均を下回っている状況を踏まえ、市民の生涯を通じた健康づくりや生涯にわたる活躍への支援が必要となっています。

（２）市民の課題意識

岡山市らしさの発揮と発信

○　市民の意識を見ると、住みやすさへの一定の評価がある一方で、岡山市の特徴をつくり、都市ブランド力を高めること、地域への愛着や関心を高め、対外的に発信していくことなどが課題となっています。

○　また、地方分権が進展し、グローバル化や広域化など社会情勢が絶えず変化する時代にあっては、地域の独自性を生かしたまちづくりを進めることが必要です。

○　全国から見た岡山市の認知度が必ずしも高いとは言えない状況の下、これを高めていくためには、これまで十分な活用や発信ができていないと言われている岡山市固有の自然、歴史・文化等の地域資源の価値を学び、まちづくりに活かしていくとともに、岡山市を国内外に向けて積極的に発信していくことが重要となっています。

２．岡山市の強みと特性

高次の機能集積、中四国の交通のクロスポイント

○　岡山市の人口は、岡山県の３分の１強を占め、圏域の中心都市として、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション等の高次の都市機能が集積するとともに、明治時代の第六高等学校、岡山医科大学、戦後の岡山大学の開設等、高等教育の歴史を背景に、現在、市内には岡山大学をはじめ１１の大学・短期大学に、約３万人の学生が集う、中四国地方の学術・研究の拠点都市となっています。

○　岡山市は、近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国をつなぐ南北軸のクロスポイントに位置し、広域・高速道路網、山陽新幹線に加え在来線７路線が東西南北に広がる鉄道網、東京はもとより、アジアの諸都市につながる航空網等、全国的にも非常に優れた交通の広域拠点性を有しています。

災害が少なく温暖な気候、豊富な医療・介護資源

○　岡山市は、瀬戸内特有の温暖な気候に恵まれた「晴れの国」であり、直下に活断層が存在せず自然災害の少ない安全・安心な都市として全国的にも認知されてきています。

○　また、面積は約７９０ｋ㎡と広大な市域を有し、自然環境は多様性に溢れ、北部の吉備高原とそれに連なる緑濃い山並や棚田の原風景、市街地周辺の操山・龍ノ口山、南部の干拓により生まれた広大な田園地帯、市域を貫流し瀬戸内海に注ぐ旭川・吉井川など、豊かな水と緑を感じながら、潤いのある暮らしを楽しむことができます。

○　さらに、岡山藩医学館をルーツとする岡山大学病院をはじめ、高度な医療を提供する医療機関の集積や、介護サービス事業所の充実など、健康と生命を守る重要な基盤である医療・介護資源の蓄積があり、市民の安心な暮らしを支えています。

先人から引き継ぐ固有の歴史・伝統・文化

○　古代には、造山古墳の存在が物語る古代吉備勢力の繁栄があり、その典型がいわゆる「桃太郎伝説」の起源となった「吉備津彦の鬼退治の神話」であり、今日の「うらじゃまつり」の名前の由来である鬼神「温羅（うら）」が登場します。また、岡山を代表する銘菓「吉備団子」も、すでに近世初めには、狂歌にもよまれる名物として世間に知られていました。

○　戦国時代から江戸時代初期にかけては、宇喜多、小早川、池田の３家５代にわたる岡山城の築城・城下町の形成のほか、池田光政による藩士の子弟のための藩学校の設立、池田綱政による日本３名園の一つとして名高い岡山後楽園の築造がありました。

○　池田光政、綱政の２代に仕えた津田永忠は、岡山後楽園の築造のほか、百間川の開削などの治水事業、沖新田などの干拓を行いました。また、児島湾の干拓は、明

治、大正、昭和と続き、人造湖としては世界第２の規模となる児島湖の誕生により完成を見ました。

○　市内の国指定史跡は、岡山城跡、大廻小廻山城跡、彦崎貝塚及び万富東大寺瓦窯跡など１８か所あり、政令指定都市では京都市に次いで２番目に多くなっています。

第３次産業中心の産業構造と全国有数の農業都市

○　岡山市の産業は、第３次産業を中心にバランスのとれた構造となっており、事業所数では、「卸売業、小売業」が約３割を占め、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が比較的高く、従業者数は、「卸売業、小売業」に次いで、「医療、福祉」、「製造業」、「宿泊業、飲食サービス業」の割合が高くなっています。

○　また、恵まれた気候風土と豊かな自然の中で、ブランドとして認知されている白桃、マスカット、ピオーネをはじめ、千両なす、黄にらなどの多彩な農産物が生産される全国有数の農業都市であり、瀬戸内の海産物等も用いた豊かな食文化が育まれています。

活発な地域活動、世界をリードするＥＳＤの取組

○　岡山市には、明治時代の石井十次による日本初の本格的な孤児院の開設、今日の民生委員制度のモデルとなった大正時代の岡山県済世顧問制度の創設など、全国に先駆けた歴史があります。こうした福祉や地域を大切にする精神は今に受け継がれており、地縁組織による防犯・防災、環境美化、子ども・高齢者の見守りなど活発な地域活動の蓄積があります。

○　身近な環境づくり活動の広がりが評価され、岡山地域は、平成１７（２００５）年に、持続可能な社会の担い手づくりを進めるＥＳＤ（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の世界で最初の地域拠点の１つとして認定されました。平成２６（２０１４）年には、「ＥＳＤに関するユネスコ世界会議」が岡山市で開催され、公民館を拠点として地域が連携した「ＥＳＤ岡山モデル」が高い評価を得ました。さらに、平成２７（２０１５）年には、ユネスコよりＥＳＤ推進のための「地域・地方での取組の促進」分野の「キーパートナー」に認定されています。

３．都市づくりの基本目標

未来へ躍動する　桃太郎のまち岡山

岡山市は、これまで述べてきた時代の変化や要請、市民の課題意識を踏まえつつ、固有の強みや特性を最大限に活かしながら、活力があふれ、市民が愛着と誇りを持ち、未来へ躍動する都市の実現に向け、岡山市のさらなる発展と市民の満足度の向上をめざした都市づくりを進めます。そして、新たな岡山市の都市づくりの象徴として、未来への躍動感、力強さと健康、白桃に代表される農産物などを、全国的にも知名度が高く、岡山固有の歴史・文化に由来する「桃太郎」に重ねあわせ、「桃太郎のまち岡山」を掲げ、市民と行政が一体となって取り組みます。

都市の躍動感を創出する

○　水と緑に恵まれた美しく快適な環境を大切にし、安全・安心の「住みやすさ」を基盤にしながら、また、市民がまちづくりの変化を実感できるよう、都心部と周辺部との調和とバランスのとれた発展に意を用いながら、国内外に開かれた活発な交流を通じて新たな都市の魅力を創造、発信し、活力と躍動感あふれる都市づくりを進めます。

○　これにより、岡山市の都市ブランドを確立し、市民がその魅力を自信を持って国内外に発信できる都市をめざします。

○　岡山市に生まれ、育ち、学び、働き、活動する市民誰もが、個性と能力を最大限に発揮し、一人ひとりが夢や希望を実現できるよう後押しする、人が輝く都市づくりを進めます。

「住みやすさ」に磨きをかける

○　これまで培ってきた、安全・安心で、恵まれた自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる暮らしが、岡山市の魅力として捉えられています。このような「住みやすさ」に磨きをかけ、市民誰もが岡山に住み続けることに誇りを持てる都市づくりを進めます。

市民と行政がともに変えていく

○　都市づくりの目標や課題を市民と行政が共有し、具体的な役割分担を明確にしながら、ともに考え、ともに行動し、その実現に向けて協働で取り組んでいきます。また、市役所自身、市民からの期待に応えられる組織への自己変革を進めます。

以上の基本目標の実現に向けて、３つの将来都市像、１０の都市づくりの基本方向を定めます。

４．将来都市像

＜将来像１＞

中四国をリードし、活力と創造性あふれる「経済・交流都市」

【地域経済を成長させ、賑わいを創出する】

○　岡山市の持つ優れた立地条件や商業・業務、医療、教育・文化等の都市機能集積の強みを活かした産業育成や、多彩な農業の振興を図ることにより、地域経済の活力を生み出す都市をめざします。

○　都心部において、国内外からの観光・コンベンション、ビジネス等の交流を活発化するとともに、中心市街地の魅力と賑わいを創出することにより、市域全体の発展をけん引する原動力とします。

【都心とつなぎ、地域の魅力をつくる】

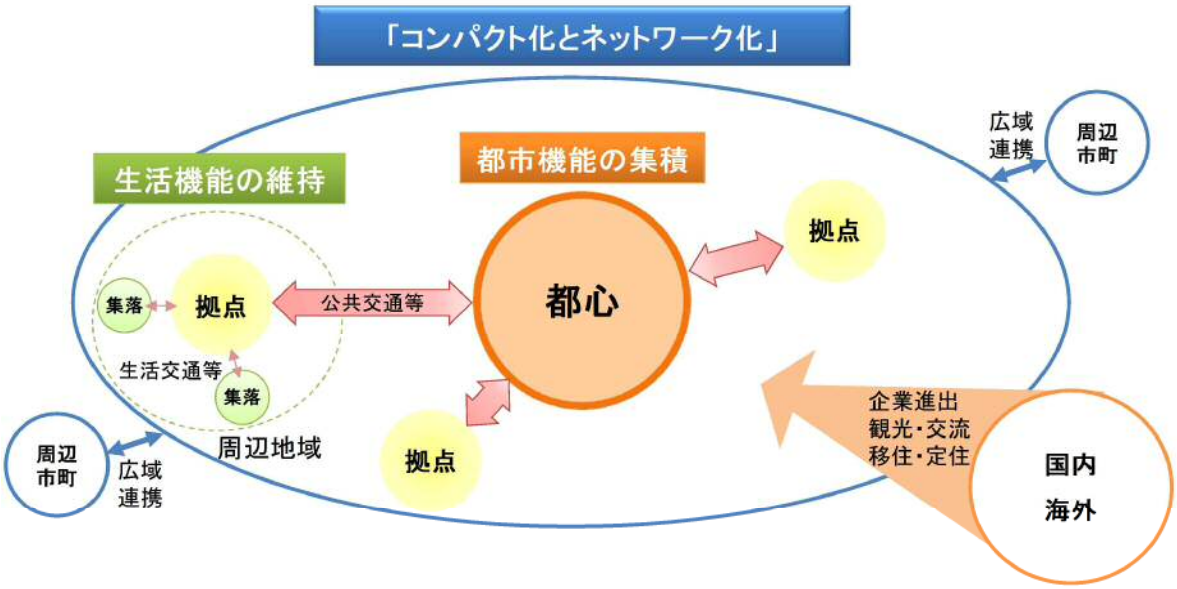
○　都心部と地域の拠点とが利便性の高い公共交通等で相互に結ばれた、「コンパクト化とネットワーク化」の都市づくりを進めるとともに、それぞれの周辺地域が、生活機能を維持しながら、多様で豊かな地域資源を活かし個性を発揮する、彩り豊かな多様性のある都市をめざします。

【新たな文化を創造・発信する】

○　岡山市固有の歴史・伝統・文化をまちづくりに活用するとともに、市民一人ひとりが学び親しむことにより、様々な交流を通じて新たな文化を創造し、岡山市らしさを市民が誇りを持って国内外に積極的に発信する都市をめざします。

【圏域の発展をけん引する】

○　高次都市機能の集積を活かし、関係市町と相互に連携しながら、圏域全体の発展を力強くリードする拠点都市をめざします。



＜将来像２＞

誰もがあこがれる充実の「子育て・教育都市」

【子育て環境を充実させる】

○　結婚、妊娠、出産、子育てを希望する誰もが安心して子どもを生み育てることができる環境が充実し、若者世代が定着し、女性や若者の大きな人材力を活かす都市をめざします。

【未来を拓く人材を育てる】

○　子どもが将来に夢と希望を持って健やかに育つよう、就学前から中学校までの学びの連続性を大切にするとともに、家庭、学校、地域が協働して教育力を高めることにより、他者や社会とのつながりを重視して、自ら考え、学び、行動する、未来を拓く人材が育つ都市をめざします。

【多様な担い手を活かす】

○　ＥＳＤの理念に基づき、次代を担う人材を育成し、多様な担い手が、自助・共助・公助の精神で、それぞれの役割を発揮しながら、より良い地域をつくり上げる市民主体の都市をめざします。

＜将来像３＞

全国に誇る、傑出した安心を築く「健康・環境都市」

【健康で安心に暮らす】

○　豊富な医療・介護資源を活かし、生涯を通じて健康でいきいきと活躍でき、医療や介護等の支援が必要になっても誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる都市をめざします。

【安全に万全を期す】

○　都市基盤の計画的な整備と更新、地域における防災、減災、防犯などの自主的な活動を通じて、大規模化する自然災害等への備えに万全を期し、市民の暮らしの安全・安心が確保された都市をめざします。

【豊かな自然環境を引き継ぐ】

○　低炭素・循環型社会の推進や、市民一人ひとりが地球環境や将来世代に配慮した行動を実践することで、環境負荷の少ない持続可能な社会づくりを進め、多様な自然環境と調和した豊かな暮らしを将来世代に引き継ぐ都市をめざします。

５．都市づくりの１０の基本方向

基本方向１
地域経済の活性化による、魅力と活力あふれるまちづくり

地域経済を支える中小企業の育成・強化を図るとともに、岡山市の持つ優れた立地条件や、医療・介護等の都市機能集積の強みを活かし、新産業の戦略的な創出・育成、企業立地等を進めます。

岡山城・岡山後楽園を中核とする歴史・文化ゾーン、表町エリア、岡山駅周辺エリアなどそれぞれの特性を生かすとともに、回遊性を高めるなど、魅力と賑わいのある中心市街地の創出を図ります。

意欲ある農業者による多様な生産の選択と拡大を進めるとともに、農村コミュニティの再生・強化、地産地消の取組を推進することにより、多彩で豊かな農産物を生産する農業を振興します。

歴史・文化等の固有の地域資源を活かした観光・交流の促進や都市ブランドの向上等により、国内外から多くの人が集い、交流するまちづくりを進めます。

基本方向２
コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくり

人口減少や高齢化が進む中にあっても、市民生活の質と都市の活力の向上を図るため、高次な都市機能が集積し賑わいと交流の拠点となる都心部と、豊かな自然や歴史・文化など地域資源に恵まれた周辺地域とが調和し、それぞれの特性と機能を活かした、コンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくりを進めます。

併せて、低炭素社会にも適切に対応し、自動車への過度の依存から脱却するため、誰もが安全・快適・円滑に移動できるように、鉄道やバス等の公共交通を中心に、徒歩、自転車、自動車を組み合わせて、生活交通にも十分配慮しながら、地域特性に応じた交通ネットワークを構築することで、「自動車優先から人優先」のまちづくりを進めます。

基本方向３
歴史と文化が薫り、誇りと一体感の持てるまちづくり

岡山城・岡山後楽園、吉備路等の岡山市固有の歴史・文化資産に子どものころから学び親しむとともに、その魅力を活かしつつ新たな文化を創造し、国内外に発信することで、地域への誇りを高め、国内外から多くの人が訪れ、交流するまちづくりを進めます。

豊かで健やかな暮らしと都市の活力を育む、文化・芸術、スポーツを振興することにより、様々な交流を促進し、一体感の持てるまちづくりを進めます。

基本方向４
安心して子育てができ、若者や女性が輝くまちづくり

希望する誰もが安心して喜びを感じながら子どもを生み育てることができるよう、保育サービスの安定的な確保や、ワーク・ライフ・バランスを推進するとともに、子育て家庭の孤立化を防ぐため、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。

また、困難を抱える子ども・若者への総合的な対策を充実させ、安全で健やかに育ち、自立することができる環境づくりを進めます。

さらに、若者や女性が持つ潜在力や多様な視点を企業活動や行政、地域社会等の様々な場面で活かすなど、地域内の多様な人材を確保し、活力あふれる地域社会をつくります。

基本方向５
つながる教育で未来を拓く人材を育むまちづくり

学びと育ちの連続性を大切にするとともに、家庭、学校、地域がそれぞれの役割を果たしながら協働して子どもを育むことにより、確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の「知・徳・体」の調和がとれ、困難に直面してもたくましく社会を生き抜く力を備えた「自立する子ども」を育成します。

また、市民の生涯にわたる豊かな学びを支援し、未来を拓く力と豊かに生きる力を育むまちづくりを進めます。

基本方向６
理解を深め合い、ともに築く市民主体のまちづくり

地域課題が高度化、複雑・多様化している中、ＥＳＤの理念をまちづくり全般に共通する行動指針としながら、行政、地域住民、ＮＰＯ、企業や、知の拠点である大学等の多様な主体がパートナーシップを深め、それぞれの特性や力を発揮し、役割分担を明確にし、幅広い課題の解決に向けて実践していくまちづくりを進めます。

行政はもとより、民間レベルでの国際交流を推進しながら、グローバルな人材が育ち、外国人市民との交流が活発で多文化共生の国際的に開かれたまちづくりを進めます。

基本方向７
住み慣れた地域で安心して暮らせる健康・福祉のまちづくり

市民の健康寿命を延伸し、生涯にわたり、健康でいきいきと生活できるよう、市民の主体的な健康づくりを促進するとともに、生涯現役で活躍できるまちづくりを進めます。

また、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるよう、岡山市の豊富な医療・介護資源を活かし、市民と協働して地域毎に医療・介護・予防・住まいを一体的に提供できる「地域包括ケアシステム」の構築を進めます。

さらに、高齢者、障害者、生活困窮者等が、地域から孤立することなく、それぞれの能力を発揮し自立して暮らし続けられるよう、地域全体で支え合いながら、必要な福祉サービスを提供することにより、社会参加と自立を促進します。

基本方向８
地域の力を活かした災害に強く安全・安心なまちづくり

市民の安全・安心への意識の高まりに対応し、災害による被害を最小限にとどめるため、災害に強い都市基盤の整備を進めるとともに、高度経済成長期に集中的に整備され、老朽化が懸念される都市インフラの効果的・効率的なマネジメントに取り組みます。

併せて、迅速・的確な対応ができる消防救急体制や地域の防災力の強化を図り、市民が安心して暮らせる環境づくりを進めます。

また、犯罪や交通事故の少ない生活環境づくりや消費者保護など安全な市民生活を守る取組を進めます。

基本方向９
豊かな自然と調和した市民の手による持続可能なまちづくり

市民が自然とのふれあいを日常生活の中で楽しみ学ぶことができる環境づくりを進めるとともに、地域に根ざした環境保全活動の輪を広げ、多様で豊かな自然と共生した持続可能なまちづくりを進めます。

低炭素型の都市の実現に向けて、市民、事業者等との協働により再生可能エネルギーの導入、省エネルギー化を進めるとともに、市民生活や都市活動を環境にやさしいスタイルに変革していきます。

循環型社会の構築に向けて、市民、事業者、行政が一体となり、リフューズ（発生抑制）、リデュース（排出抑制）、リユース（再使用）、リサイクル（再生利用）の４Ｒの取組により、徹底した廃棄物の減量化・資源化を進めます。

基本方向１０
圏域をリードし、都市の持続的発展を支える都市経営

都市の持続的発展を支えるため、財政運営の健全性の確保、簡素で効率的な行政運営に向けた市役所の自己変革、官民の役割分担の見直し等の不断の行財政改革に取り組むとともに、地方創生に向けた取組を積極的に推進します。

経済分野をはじめ広域的な視点を持って取り組むべき行政課題に的確に対応していくため、連携中枢都市圏の枠組みも活かした関係市町との有機的な連携を進め、圏域全体の発展を力強くリードし、さらには瀬戸内地域の活性化に貢献します。